

新時代拓くサービスイノベーションを求む

革新的で優れたサービスを表彰する第5回日本サービス大賞（日本生産性本部サービス産業生産性協議会（SPRING主権）の応募受付が、6月3日から始まる。応募期間は7月23日15時まで。第5回日本サービス大賞委員会の村上輝康委員長（産業戦略研究所代表）は生産性新聞のインタビューに「新しい時代を生み出すサービスイノベーションを求めている」と、広く応募を呼び掛けた。

第5回日本サービス大賞、6月3日募集開始



第5回日本サービス大賞委員会委員長
産業戦略研究所代表

村上輝康氏

特集

日本サービス大賞

日本サービス大賞は、国内のすべてのサービス提供

事業者を対象に、多種多様なサービスを共通の尺度で評価し、きらりと光る優れたサービスを表彰する制度だ。革新的なサービスを生み出し、顧客との価値共創に成功して、優れた業績を上げている、日本のサービ

スイノベーション推進のシンボルとなる取り組みを表彰する。

最も優秀と評価されたサービスを表彰する「内閣総理大臣賞」をはじめ、「経済産業大臣賞」「総務大臣賞」「厚生労働大臣賞」「農林水産大臣賞」「国土交通大臣賞」「地方創生大臣賞」「JETRO理事長賞」「優秀賞」「審査員特別賞」を設けており、合計20から30件程度を表彰している。

内閣総理大臣賞受賞サービスは、第1回はクルーズトレイン「なつ星in九州」（九州旅客鉄道）、第2回は「丸の内再構築の地域協働型プロジェクト」（三菱地所）、第3回は土木建設の業態革新「スマートコンストラクション」（小松

製作所）、第4回はファッションのサブスク「air Closet」（エアークローゼット）である。

審査を行う日本サービス大賞委員会委員長の村上氏は、「サービスの高度化と産業の発展を先導する革新的な優れたサービスであることが期待されている。」

そして、頻発する自然災害や、本格化する人口減少、医療・健康・教育・エネルギー・地球環境問題の深刻

具体的には、サービスへの科学的アプローチのフレームワーク「価値共創のサービスモデル（ニコニコ図）」をもとに、①顧客から見たサービスの良さ（顧客接点）、②サービスをつくりとどける仕組みの良さ（事業組織）、③事業の継続性・発展性を示す成果（企業経営）、④社会の発展への寄与（社会経済システム）を評価する。

日本経済を巡っては、原

材料やエネルギー価格等の高騰に苦慮しながらも、賃金水準の向上に果敢に挑戦し、人的資本や技術開発投資、仕組み革新への配慮も

怠らない、コロナ後の新しい姿が次第に明らかになってきている。そこから生まれるサービスイノベーションが期待されている。

そして、頻発する自然災害や、本格化する人口減少、医療・健康・教育・エネルギー・地球環境問題の深刻

全体に課題が山積する中で、これらの解決の糸口をつくり出すのもサービスイノベーションである。

村上氏は「サービスイノベーションは、変革を先導している。私たち生活者の暮らしや経済を一新させる勢いを持つ革新的で優れたサービスの登場を待っている」と話した。